

歌舞伎舞踊「^{あめ}雨の五郎^{ごろう}」とは

「五郎」あるいは「廓^{くるわがよ}通いの五郎」とも呼ばれる長唄^{ながうたきょく}曲による
この変化舞踊^{へんげぶよう}は、幾つもの役柄^{ふんそう}をひとりの演者が扮装を変えて
踊り分けるもので、その踊り分けがみどころとなるものです。

そうした作品の一景^{いっけい}として上映された本作は雨の降る中、
曾我五郎^{そがのごろう}が恋人である傾城^{けいせい}の化粧坂少将^{けわいざかのしょうしょう}の許へ通う道中を描いたもので、
単独で上演されるようになり、人気舞踊のひとつとして上演を重ねています。

五郎には前髪^{ゆうそう}の血気盛んな勇壮さと共に、
恋人の許へ通う青年の爽やかな色気が求められます。

カラミを相手に荒事味^{あらごとみ}が溢れた様子を見せた五郎は、
やがて、恋人から届いた天紅^{てんべに}の文を手にして、その恋心を描きます。

このクドキはみどころのひとつです。

続いて、「い^おいでオそれよ」からは、

亡父^{かたきうち}の敵討を志す様子を見せる荒事味が発揮される最大の見せ場となります。

そして、踊り地^{くるわ}となり、廓の内、恋する男女の様子を描く華やかな手踊りを

見せた後、サラシ^{なりもの}の鳴物^{げんろくみえ}となる中、元禄見得を見せて幕となります。

柔らか味を交えながら、血から強い荒事風の味わい溢れる舞踊をご堪能ください。